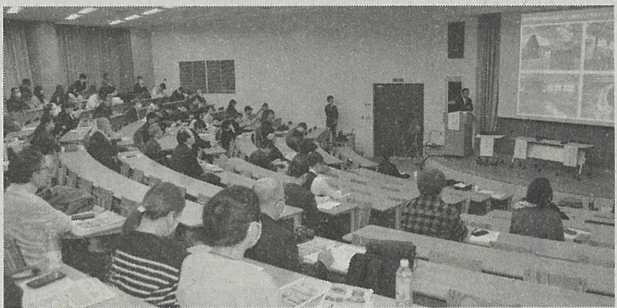


住み続けるマチへ投資を

釧路で金融
フォーラム 清水町辻町長ら講演

釧路公立大学地域経済研究センター主催の「ひがし北海道地域経済・金融フォーラム」(第5回)が15日、同大学で開催され、第1部で同大学卒業生である十勝管内清水町の辻康裕町長と鶴居村の高松一哉副村長がマチづくりの取り組み、課題について講演した。

鶴居村の高松副村長は釧路公立大学経済学部経済学科の2期生。道職員から鶴居村に転職し、北海道大学大学院で博士号(環境科学)を取得している。講義で鶴居村の課題について職員定数の欠員、保健師など専門職やDX推進の人材不足、定年前職員の離職を挙げた。また、有利な起債である「過疎対策事業債」を活用できる過疎地域指定(2030年度)が次回は指定除外になる見込みを示し、「非常に大きな課題を抱えている。取捨選択、連携・協同が重要だ」とふるさと納税の推進や、中央大学との連携など克服への意欲を



学生、一般市民が訪れた、ひがし北海道地域経済・金融フォーラム

語った。

また、同じく釧路公立大学一期生である清水町の辻町長は「住民が住み続けるマチへの投資が必要だ。特に、中学を卒業した時には英語が日常的に話せる教育に取り組んでいる」とマチの魅力づくりを語った。フォーラムは引き続き第2部の金融フォーラム、第3部の学生発表が行われた。

(郷裕策)